

第49回長久手市地域公共交通会議 議事録要旨

議 事 概 要	
会議の名称	第49回長久手市地域公共交通会議
開催日時	令和2年1月15日(水) 午前10時～正午
開催場所	ながくてエコハウス 多目的室
出席者氏名	<p>15名中14名出席(五十音順)</p> <p>会 長 松本 幸正 副会長 樋口 恵一 委 員 天野 力 委 員 石井 初美 委 員 浦川 正 委 員 上井 久仁彦 委 員 加藤 正純 委 員 加納 好章(代理出席) 委 員 古賀 めぐみ 委 員 小林 裕之 委 員 佐藤 幸太 委 員 矢野 正彦 委 員 横山 直樹(代理出席) 委 員 吉岡 実</p> <p>説明員</p> <p>(N-バス事業者) 安心安全課長 南谷 学 同課長補佐 山際 裕行</p> <p>(定額乗合タクシー事業者)</p> <p>福祉部次長兼長寿課長 中野 智夫 同課長補佐 粕谷 庸介</p> <p>(事務局) 市長公室次長兼経営企画課長 横地 賢一 同課長補佐 森 延光 同主事 戸田 敬志 同主事 吉本 亜未</p>
欠席者氏名	委員 安井 文規
傍聴者人数	3名
会議の公開・非公開	公 開
審議の概要	<p>1 議 題 平成31年度(令和元年度)地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について</p> <p>2 報 告 (1) N-タク実証実験結果の概要</p>

	<ul style="list-style-type: none">(2) Nーバスの利用実態調査結果の概要(3) 「Nーバスのルート再編に向けた意見交換会」の開催結果について(4) 公共交通応援隊キッズイベントグループ活動報告について(5) 市内公共交通の利用者実績について <ul style="list-style-type: none">3 意見交換4 その他
--	--

1 議 事

- (1) 平成31年度(令和元年度)地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について
(資料1-1、資料1-2に基づき愛知県及び事務局より説明)

会長

この議題について意見はあるか。

委員

地域内フィーダー系統の評価において、改善点に記載されている内容に具体性がないが良いか。

委員

この改善事業が第三者評価委員会に該当している場合は、中部様式を使用し詳細を記載することになるが、長久手市は今年度の第三者評価委員会に該当しておらず、提出する自己評価書類は国で統一された様式を用いた資料1-2の内容で足りる。しかし、目標についてはそれぞれの項目で記載していただきたい。

副会長

利用者が減少していることに対して何か具体的な策があるのか。

事務局

見直し基準の具体化に向けて検討している。今まで利用者数を全体で評価をしていたが、路線ごとに評価をすることで原因を把握し、改善することで利用者の増加を目指す。

会長

利用者が減少した原因として、ダイヤ改正に伴う減便の影響は大きいと思うが、利用者の増加に向けて是非皆さんも協力していただきたい。協議事項については、2023年度の目標の横に網形成計画と記載すること及びそれぞれの項目で目標を記載した上で承認ということによるしいか。

(異議なし)

<裏面へ>

会長

承認いただいたということで進めさせていただく。

2 報 告

(1) N-タク実証実験結果の概要

(資料2に基づき、N-タク説明者より説明)

委員

乗合率について、1運行あたりの平均乗合人員は把握しているか。

長寿課

把握していないが、データは取っているため算出することは可能である。

会長

前年度の実証実験において利用が少なかったため、無料券を配布することにしたが、実際には多くの無料券が余ってしまった。無料だからといってN-タクを使う訳ではないことが分かった。

また、地域公共交通会議の場では、他の公共交通機関との競合が発生しているのかが懸念される場所である。アンケート結果から、他の公共交通機関利用者が多いため競合が発生していると言える。理想は、今まで外出しなかった人がN-タクがあることによって外出することだが、アンケート結果を見ると、普段から他の公共交通機関を利用して外出する人がN-タクを利用したという結果になってしまった。今後は、家族に送迎をお願いできなかった、バス停まで移動するのが難しかった、車の運転に不安があった、という人たちが利用し易くなるような制度設計をしていく必要がある。

また、豊明市の中学生が行った自由研究では、高齢者は移動手段があっても目的がなければ外出しないという調査結果だった。まずは外出目的があって、それに見合った移動手段が必要だという結論である。外出目的を作ることが重要である。

委員

煩雑な免許返納の手続きをしても返納後すぐに公共交通を利用するという選択にならないこともある。例えば、長久手温泉ござらっせで入浴した後にバス停で待ったり、バス停から自宅まで歩いたりすることが億劫で、免許返納したからといって、ござらっせの利用券を貰っても使わないという話を聞いた。

会長

市役所で免許返納の手続きをした後すぐにNーバスが無料で乗車できる券等を発行できるとNーバスの周知にもつながる。

委員

Nータクについては、高齢者のお出掛け支援としては良い施策だと思う。しかし、本格運行に向けてはNーバスを始めとする既存公共交通とのバランスを調整しながらNータクの制度設計をして欲しい。

会長

前年の実証実験に比べて利用者数が増加した等の行政目的としての効果はあったと思われる。しかしながら、投資した税金に対する費用対効果等の検証もすべきである。

副会長

Nータクは老々介護に対する支援策とも受け止められるが、実際の利用者がどのような人だったのか属性を明らかにし、今後も検証していただきたい。

(2) Nーバスの利用実態調査結果の概要

(資料3-1に基づきNーバス事業者より説明)

委員

資料の中で、「最寄りバス停まで徒歩移動が困難と感じている方や自動車運転免許を返納した方ほど利用頻度が高い傾向にあり、出控えの傾向はみられず」と記載してあるが、Nーバス利用者を前提としたアンケートであり、実際にNーバスを利用していない人の意見は含まれていないためここまでの表現は出来ないと思われる。このアンケート結果を見ると、全ての移動困難者や自動車運転免許返納者の利用頻度が高いように思えるため表記を変更した方が良い。

安心安全課

表記を変更させていただく。

<裏面へ>

副会長

週5日以上使っている人の移動実態を把握することで、モデルルートとしてNーバスの未利用者に対して周知できるのではないかと。

会長

Nーバスが便利だというアピールを、以前発行したかわら版のようなもので周知できると良い。

委員

Nータクへの利用意向について、Nータクの対象者ではない64歳までの人でもNーバスとNータクを使い分けて利用を選択している人が居る。Nータク対象者だけの回答を集計すると全体の結果も変わるのではないかと。

会長

今年度のNータクの制度設計を理解し、若い世代も将来的なことを踏まえた回答になっているのか。

安心安全課

Nータクの制度設計は広報やホームページ等で公表していた時期であるため知っている前提でアンケートを実施した。年齢等絞らず全体アンケートとしており将来的なことを含めた聞き方まではしていない。

(3)「Nーバスのルート再編に向けた意見交換会」の開催結果について

(資料4に基づきNーバス事業者より説明)

会長

ルートはあくまで案であり、今後変更がありうることを理解していただきたい。再編の方針については次回3月の会議で示すことになるのか。

安心安全課

その通りである。

委員

経由が多く時間がかかりそうところが気になるが、次回会議においてルートを変更した際のメリット、デメリットを明示していただきたい。

安心安全課

明示させていただく。

委員

愛知医科大学に向かうバスとしては、名鉄バスもあり、名鉄バスの利用者は減少していると聞いている。さらにNーバスの路線が増えることによって、更に名鉄バスの利用者が減少することも考えられるが調整を行っているのか。

会長

全てに税金を投入する必要はなく、他公共交通機関への影響も踏まえ既存の公共交通を上手く利用していけると良い。

委員

現状のルート案を出していただいたが、ダイヤも他公共交通機関に影響があると考えられるため、次回ダイヤも明示していただきたい。

委員

菱野団地の住民バスのように、Nーバスは停留所に限らないフリー乗降ができないか。

安心安全課

制度上は可能であるが、今のところはNーバスにおいてフリー乗降は考えていない。

委員

愛知県内だと、岡崎市の山間部においてフリー乗降を取り入れているバスもあるが、長久手市内では交通量の問題等もあるため難しいと思われる。

(4) 公共交通応援隊キッズイベントグループ活動報告について

(資料5に基づき、事務局より説明)

<裏面へ>

委員

イベントは参加者数を見ても成功と言える。しかしながら、子どもたちがNーバス等に乗りたいと言っても、親は荷物や時間の都合上どうしても車を利用しがちになる。イベントの際には親子でNーバスに乗ってきてもらう工夫が必要だと考える。

会長

来年度以降も工夫しながら継続してイベントを実施していただきたい。

(5) 市内公共交通の利用者実績について

(資料6-1、6-2、6-3、6-4に基づき、愛知高速交通㈱、名鉄バス㈱、Nーバス事業者、事務局より説明)

委員

名鉄バスの愛知学院線について、令和2年度に学部等の移転により学生数が減少するため、名鉄バス利用者にも影響があると思われる。また、愛知医科大学病院線については利用者が伸び悩み路線存続が難しくなっていくことが考えられる。そのためチラシ等を作成し、利用者増加のため周知を引き続き行っていく。

会長

順調に利用者が増加している路線や不安な路線のどちらもあるが、市内公共交通全体の利用者が増加するように引き続き協力をお願いしたい。

事務局

長時間ありがとうございました。

次回は、3月12日の開催を予定しており、Nーバスの路線再編方針及びNータクの運行計画についてを協議事項として予定しております。

以上で第49回地域公共交通会議を終了とする。

以上